

TAKE NINAGAWA

バイオグラフィー

大竹伸朗
Shinro Ohtake

1955年東京都生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

- 2025 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 香川 (開催予定)
- 2022 「大竹伸朗展」東京国立近代美術館 (東京); 愛媛県美術館 (愛媛); 富山県美術館 (富山)- 2023
「銅の時代 1978-2022」銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM, 東京
- 2021 「残景」Take Ninagawa, 東京
- 2019 「大竹伸朗 1975-1989」Take Ninagawa, 東京
「ビル景 1978-2019」熊本市現代美術館 (熊本); 水戸芸術館 現代美術ギャラリー, (水戸)
- 2016 「Shinro Ohtake: Paper - Sight」Singapore Tyler Print Institute (STPI), シンガポール
「時憶」Take Ninagawa, 東京
「SHOW-CASE project No. 3」慶應義塾大学 三田キャンパス, 東京
- 2014 「大竹伸朗」Parasol unit, ロンドン
「既憶景」宮浦ギャラリー六区, 直島, 香川 (主催: 公益財団法人福武財団)
- 2013 「'00 -'12」Take Ninagawa, 東京
「大竹伸朗: 憶速」高松市美術館, 高松
「大竹伸朗展: ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 香川
「焼憶展」INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館, 愛知
- 2012 「大竹伸朗」アートソングジェ・センター, ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」佐賀町アーカイブ, 東京
- 2010 「#65 | 2005-2010」Take Ninagawa, 東京
「#65」Take Ninagawa, 東京
- 2009 「貼貼貼貼 (Shell & Occupy 4)」Take Ninagawa, 東京
- 2008 「貼貼貼 (Shell & Occupy 3)」Take Ninagawa, 東京
「貼貼 (Shell & Occupy 2)」Take Ninagawa, 東京
「貼 (Shell & Occupy)」Take Ninagawa, 東京
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」広島市現代美術館 (広島); 福岡市美術館 (福岡)
- 2006 「ヤバな午後」NADiff, 東京
「大竹伸朗と別海」ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 全景 1955-2006」東京都現代美術館, 東京
「旅景 TABI-KEI」ベイスギャラリー, 東京
- 2005 「On Paper」ベイスギャラリー, 東京

TAKE NINAGAWA

- 2004 「UK77-写真、絵、貼 1977-78年」 ベイスギャラリー, 東京
- 2002 「BLDG. 大竹伸朗新作展」 ベイスギャラリー, 東京
「Man Is Basically Good: 大竹伸朗個展1982-2000」 ベネッセハウス ミュージアム, 香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景/MOUSECAPE」
エプソン・イメージング・ギャラリー エプサイト (東京); NADiff (東京)
- 2000 「10.08. 武満徹 SONGS + 大竹伸朗」 NADiff, 東京
「ダブ景 大竹伸朗」 KPOキリンプラザ, 大阪
「大竹伸朗展」 ベイスギャラリー, 東京
「大竹伸朗 既景 1978-2000」 セゾンアートプログラム・ギャラリー, 東京
- 1999 「ZYAPA ORAMA 大竹伸朗展」 パルコギャラリー, 東京
- 1998 「大竹伸朗展」 Commons Gallery, ハワイ大学マノア校 美術学部, ホノルル, ハワイ州
「ネガな夜 大竹伸朗展」 西武アート・フォーラム, 東京
「新津-あいまいで私が日本 大竹伸朗展」 新津市美術館, 新潟
- 1997 「大竹伸朗 イン・プリント」 NADiff Gallery, 東京
「大竹伸朗 プリンティング/ペインティング」 CCGA 現代グラフィックアートセンター, 福島
- 1995 「大竹伸朗 網膜」 高島屋コンテンポラリー・アートスペース, 東京
「大竹伸朗展 X+Y=LOVE」 ストアデイズ, 東京
- 1994 「カスバの男 モロッコ日記」 アールヴィヴァン, 東京
「大竹伸朗の新作版画展 カスバの男 モロッコ日記」 西武アート・フォーラム, 東京
- 1993 「大竹伸朗 網膜」 ギャラリー・ところ, 東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」 西武アート・フォーラム (東京); なんばCITYホール (大阪)
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 89+91」 ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー, 西武百貨店池袋店, 東京
「大竹伸朗 ECHOS 1-100」 アールヴィヴァン (東京); Quincampoix 2 (大阪)
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 71-91」 ギャラリー・ところ, 東京
- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」 寺田倉庫 Space T33, 東京
「大竹伸朗 Recent Works 1988-1990」 ギャラリー・ところ, 東京
- 1989 「大竹伸朗 America」 アールヴィヴァン, 東京
- 1988 「大竹伸朗 ドリームス展」 ギャラリー・ダン, 大阪
「Canvasism-夢と細胞 大竹伸朗新作展」 西武アート・フォーラム, 東京
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」 佐賀町エキジビット・スペース, 東京
「大竹伸朗展 EZMD & ETCHINGS」 ギャラリー・ダン, 大阪
「〈倫敦/香港〉1980」 ギャラリー・ダン, 大阪
「ロンドン/ホンコン 1980 Part II」 みゆき画廊, 東京
- 1986 「ロンドン/ホンコン 1980」 ヒルサイド・ギャラリー, 東京
- 1985 「大竹伸朗-放浪する言語/未来の日本前衛」 Palazzo Bianco, ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング/コラージュ」 Institute of Contemporary Art (ICA), ロンドン
- 1984 「大竹伸朗 1983-1984」 ギャラリー・ワタリ, 東京
- 1982 「大竹伸朗 個展」 ギャラリー・ワタリ, 東京

主なグループ展

- 2022 「ハワイトリエンナーレ2022: Pacific Century – E Ho'omau no Moananuiākea」
ホノルル (開催予定)
「オルタナティブ! 小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」 3331 Arts Chiyoda, 東京

TAKE NINAGAWA

- 2021 「ART/MUSIC わたしたちの創作は音楽とともにある」世田谷美術館, 東京
- 2020 「東京2020 公式アートポスター展」東京都現代美術館, 東京
- 2019 「Phantom Plane, Cyberpunk in the Year of the Future」JC Contemporary, Tai Kwun, 香港
「MOMATコレクション」東京国立近代美術館, 東京
「タグチ・アートコレクション-球体のパレット」北海道立帯広美術館; 北海道立釧路芸術館;
北海道立函館美術館; 札幌芸術の森美術館, 北海道
「瀬戸内国際芸術祭2019」豊島, 香川
「百年の編み手たち-流動する日本の近現代美術-」東京都現代美術館, 東京
「ニュー・ペインティングの時代」高知県立美術館, 高知
- 2018 「バブルラップ: 『もの派』があって、その後のアートムーブメントはいきなり『スーパーフラット』になっちゃうのだが、その間、つまりバブルの頃って、まだネーミングされてなくて、
其処を『バブルラップ』って呼称するといろいろしっくりくると思います。特に陶芸の世界も合体すると
わかりやすいので、その辺を村上隆のコレクションを展示したりして考察します。」
熊本市現代美術館, 熊本
「The 9th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art」
クイーンズランド州立美術館/近代美術館 (QAGOMA), ブリスベン
「Sharjapan: The Poetics of Space」Al Hamriyah Studios, シャルジャ, UAE
「EPOCH」ROH Projects, ジャカルタ
「Flash 1977/1989」ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「起点としての80年代」静岡市美術館 (静岡); 高松市美術館 (高松); 金沢21世紀美術館 (金沢)- 2019
「181枚の記憶-高松市美術館特別展の歩み-」高松市美術館, 高松
「10th Anniversary」Take Ninagawa, 東京
「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」
平塚市美術館, 神奈川
「モダンアート再訪-ダリ, ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」
横須賀美術館 (神奈川), 広島市現代美術館 (広島); 埼玉県立近代美術館 (さいたま);
鳥取県立博物館 (鳥取)
「開館40周年記念展 トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館, 大阪
「現代美術に魅せられて-原俊夫による原美術館コレクション展」原美術館, 東京
- 2017 「In Focus: Contemporary Japan」ミネアポリス美術館, ミネソタ州
「日本の絵本100年の歩み」ちひろ美術館, 東京
「Japanorama: New Vision on Art since 1970」ポンピドゥ・センター・メッス, メッス
- 2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか・」大岡信ことば館, 静岡
「所蔵作品展: MOMATコレクション」国立近代美術館, 東京
「The Keeper」New Museum, ニューヨーク
「夏・旅・語り-原美術館コレクション」ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「瀬戸内国際芸術祭 2016」豊島, 香川
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」
Manchester Art Gallery (マンチェスター); Barbican Centre (ロンドン)- 2017
- 2015 「Books of Asia」Asia Culture Center, 光州
「Duddell's presents: ICA Off-Site: Hong Kongese」Institute of Contemporary Art (ICA),
ロンドン
「An Imprecise Science」Artspace, シドニー

TAKE NINAGAWA

- 「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: コレクション・ピカミング」東京都現代美術館, 東京
- 2014 「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: クロニクル1995-」東京都現代美術館, 東京
- 「ヨコハマトリエンナーレ2014: 華氏451の芸術 世界の中心には忘却の海がある」新港ピア, 横浜
- 2013 「5th Anniversary」Take Ninagawa, 東京
- 「第55回ヴェネツィア・ビエンナーレ: The Encyclopedic Palace」Central Pavilion, ジャルディーニ, ヴェネツィア
- 「瀬戸内国際芸術祭 2013」女木島, 香川
- 「路上と観察をめぐる表現史-考現学以後」広島市現代美術館, 広島
- 2012 「ドクメンタ (13)」Karlshaus Park, カッセル, ドイツ
- 「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館 (モスクワ); ハイファ美術館群 (イスラエル)
- 2010 「光州ビエンナーレ 2010: 10,000 Lives」Biennale Hall, 光州
- 「これも自分と認めざるをえない」21_21 DESIGN SIGHT, 東京
- 「瀬戸内国際芸術祭 2010」直島, 香川
- 2009 「I BELIEVE: 日本の現代美術」富山県美術館, 富山
- 「MOTコレクション-MOTで見る夢」東京都現代美術館, 東京
- 2006 「FIX・MIX・MAX! 現代アートのフロントライン (最前線)」北海道立近代美術館, 札幌
- 「水はつねに複数で流れる 東野芳明を偲ぶオマージュ展」ギャラリーTOM, 東京
- 「直島スタンダード2」地中美術館, 直島, 香川
- 「アートシンフォニー 20世紀美術の響き」富山県美術館, 富山
- 「武満徹: Visions in Time」東京オペラシティ アートギャラリー, 東京
- 「収蔵品展020 抽象の世界 色・かたち・空間: 東京オペラシティ コレクションより」東京オペラシティ アートギャラリー, 東京
- 2005 「decade - CCGA と6人の作家たち」CCGA 現代グラフィックアーツセンター, 福島
- 2004 「美しき旅 人生をめぐる」富山県美術館, 富山
- 「再考: 近代日本の絵画-美意識の形成と展開・第2部」東京都現代美術館, 東京
- 2003 「第41回岡山市芸術祭公式プログラム LOVE PLANET: 愛の惑星」旧出石小学校, 岡山
- 「絵とものがたり すてきなえほん・絵本の教育的効果と芸術性」姫路市立美術館, 兵庫
- 2002 「収蔵品展2002-I 新収蔵作品展 + 現代絵画入門」広島市現代美術館, 広島
- 「Love and/or Terror: A Book Arts Exhibitions」アリゾナ大学美術館, ツーソン
- 「本と美術 20世紀の挿絵本からアーティスト・ブックまで」徳島県立近代美術館, 徳島
- 2001 「竹尾ペーパーショウ2002 PLEASE: あなたから、よい、たより」スパイラル, 東京
- 「本という美術 大正期の装幀から現代のオブジェまで」うらわ美術館, さいたま
- 「あるコレクターがみた戦後日本美術」群馬県立近代美術館 (群馬); 愛媛県美術館 (松山)
- 「スタンダード展」直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
- 「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」うらわ美術館, さいたま
- 1999 「アート・ジャングル こどもとたんけん」富山県美術館, 富山
- 「日本ゼロ年」水戸芸術館 現代美術ギャラリー, 水戸
- 「時代の体温 ART/DOMESTIC」世田谷美術館, 東京
- 「現代美術のレッスンI」秋田市立千秋美術館, 秋田
- 1998 「Connections/Contradictions: Modern and Contemporary Art from Atlanta Collection」マイケル C. カルロス博物館, Emory University, アトランタ, ジョージア州
- 「都築響一 + 大竹伸朗 青山秘宝館」NADiff Gallery, 東京

TAKE NINAGAWA

- 1997 「原美術館コレクション展 人間模様」ハラ ミュージアム アーク, 群馬
- 1996 「20世紀美術の変容」セゾン現代美術館, 長野
「高知県立美術館 コレクション展 ニュー・ペインティング・コレクションを中心に」
高知県立美術館, 高知
「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗 + ヤマタカ・アイ」
ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
「所蔵品展」高知県立美術館, 高知
- 1995 「日本のブックデザイン 1946-95」ギンザ・グラフィック・ギャラリー, 東京
- 1994 「600 ソウル国際美術展」国立現代美術館, ソウル
「三木富雄/田中信太郎/大竹伸朗」ギャラリーところ, 東京
「ヒロシマ 21世紀へのメッセージ展」熊本県立美術館 (熊本); 大丸ミュージアム梅田 (大阪);
郡山市立美術館 (福島); 広島市現代美術館 (広島)
「断面1979-1994 原美術館15周年記念展」ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」ベネッセハウス ミュージアム, 香川
「アート・アゲインスト・エイズ・ジャパン アーティストの眼」横浜ランドマークホール, 横浜
「セゾン現代美術コレクション 戦後日本の絵画: 新収蔵品を中心に」セゾン現代美術館, 長野
「VOCA '94 現代美術の展望: 新しい平面の作家たち」上野の森美術館, 東京
- 1993 「親と子でみる現代美術: まなぶ あそぶ 美術の世界」富山県美術館, 富山
「日本現代彫刻の系譜 収蔵作品による」富山県美術館, 富山
「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」クイーンズランド州立美術館, ブリスベン
「近代日本美術の流れと油井一ニコレクション」佐久市立近代美術館, 長野
- 1992 「MASK 顔・表情」ギャラリー・TOM, 東京
「三木富雄/田中信太郎/大竹伸朗」ギャラリー・ルイ・カレ, パリ
- 1991 「Japan Art Today 北欧4カ国巡回記念 現代日本美術の多様展」セゾン現代美術館, 長野
「キャビネット・オブ・サインズ」Malmö Kunsthalle (マルメ); Whitechapel Art Gallery (ロンドン);
テート・ギャラリー (リバプール)- 1992
「20世紀・日本の絵画: Modernism and beyond」ふくやま美術館, 広島
「ハイブリッド・ガーデン 現代美術6人展」ビギ・アート・スペース, 京都
「アムネスティ『フリーダム '90s』ポスター展」横浜美術館, 横浜
「野生の復権 開館5周年記念展: コレクションからのメッセージ」世田谷美術館, 東京
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」レイキャビク市立美術館 (レイキャビク);
ヘルシンキ市立美術館 (ヘルシンキ); シャーロットテンブルク美術展会場 (コペンハーゲン);
ストックホルム文化会館 (ストックホルム)- 1991
「幻想の力: 日本の近・現代美術から」宮城県美術館, 仙台
「80年代の日本現代美術」Bregenzer Festspiele (ブレゲンツ, オーストリア);
ルートヴィヒ財団近代美術館 (ウィーン); Bonn Kunstverein (ボン);
Frankfurt Kunstverein (フランクフルト)- 1991
「ファルマコン '90 幕張メッセ現代の美術展」幕張メッセ, 千葉
「世界の飢えを考えよう 国際美術展」世田谷美術館, 東京
「コレクション展」原美術館, 東京
「第1回タイン国際現代美術展: ニュー・ネセシティ」Laing Art Gallery, ニューカッスル・アポン・タイン
「作法の遊戯: 90年春・美術の現在」水戸芸術館 現代美術ギャラリー, 水戸
- 1989 「Alpha Cubic Art Collection」Alpha Cubic Gallery, 東京/パリ

TAKE NINAGAWA

「アゲインスト・ネイチャー: 80年代の日本現代美術」ICA名古屋 (名古屋);
ヒューストン現代美術館 (ヒューストン); Gray Art Gallery, ニューヨーク大学 (ニューヨーク);

シンシナティ現代美術センター (シンシナティ); シアトル美術館 (シアトル);
MIT リスト視覚芸術センター・ボストン銀行 アート・ギャラリー (ボストン); アクロン美術館 (アクロン);
サンフランシスコ近代美術館 (サンフランシスコ)- 1991

- 1987 「'87 ADC展」G7ギャラリー; ギンザ・グラフィック・ギャラリー; ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
「アーティスト50人に描かれた現代女性50人の肖像展」ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った『本』の展覧会」Franklin Furnace, ニューヨーク
- 1984 「第20回今日の作家 '84展 [面] をめぐる表現の現在」横浜市民ギャラリー, 横浜
- 1983 「アンタイトルド」Lawrence Oliver Gallery, フィラデルフィア, ペンシルヴェニア州
- 1981 「第1回西武美術館版画大賞展」西武美術館, 東京
「ART POP Japan - Tokyo Today」Institute of Contemporary Art (ICA), ロンドン
- 1980 「チャイナタウン・ファンタジア展」ラフォーレ・プラザ, 東京
- 1979 「θ (シータ)」ヴィレッジ・ギャラリー, 西武百貨店池袋店, 東京

主なライブ・パフォーマンス

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96」ラフォーレミュージアム原宿, 東京
- パズルパンクスの初ライブパフォーマンス, 遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
- 1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパンクス」結成, 初CDブック「パイプライン」(UCA)発表
- 1985 「ライブ・ワズ! 1985」ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・
パフォーマンス, オックスフォード近代美術館, オックスフォード
- 1980 「クルバ・カポル」B・C・ギルバート, グレアム・ルイス, ラッセル・ミルズとのサウンド・パフォーマンス,
ノートルダム・ホール, ロンドン
- 1978 音響実験グループ「JUKE/19.」活動開始, 81年までにLP・EP5枚制作

主なパブリック・ワーク

- 2021 「熱景/NETSU-KEI」道後温泉本館, 愛媛
- 2019 「覗き岩」宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま, 愛媛
- 2016 「針工場」公益財団法人福武財団, 豊島, 香川
- 2013 「女根/めこん」公益財団法人福武財団, 女木島, 香川
- 2009 「直島銭湯 I♥湯」公益財団法人福武財団, 直島, 香川
- 2006 「はいしゃ〈舌上夢/ボッコン覗〉」公益財団法人福武財団, 直島, 香川
- 2000 「北の空に浮かぶカタチ」札幌市生涯学習センター・ちえりあ, 札幌
- 1994 「シップヤード・ワークス」シリーズ: 「切断された船首」「船尾と穴」「船底と穴」「隔壁 I-VII」
「箱の上の隔壁 I-II」株式会社ベネッセホールディングス, 直島, 香川

レジデンシー

- 2015 Singapore Tyler Print Institute (STPI), シンガポール
- 1995 アトランタ・オリンピック委員会 (ACOG)及びオリンピック文化機関の招聘により、アトランタに滞在
- 1989 USIA及びアーティスト・コロニー基金の招聘により、米国に滞在

受賞

TAKE NINAGAWA

2014 芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門

主なパブリック・コレクション

ニューヨーク近代美術館
ミネアポリス美術館
ダラス現代美術館
ヴィクトリア & アルバート博物館
M+
クイーンズランド州立美術館/近代美術館
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
世田谷美術館
富山県美術館
愛媛県美術館
高知県立美術館
駒ヶ根高原美術館
佐久市立近代美術館
広島市現代美術館
ふくやま美術館
福岡市美術館
新津市美術館
高松市美術館
ベネッセアートサイト直島
彫刻の森美術館
東京オペラシティ アートギャラリー
原美術館
セゾン現代美術館
CCGA 現代グラフィックアートセンター
公益財団法人福武財団
札幌市生涯学習総合センター・ちえりあ
宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま

主な出版物

2013 「ピ」新潮社, 東京
2010 「NOTES 1985-1987」ジェイ・ブイ・ディー, 東京
「直島銭湯 I ♥ 湯」青幻社, 東京
2008 「見えない音、聴こえない絵」新潮社, 東京
2007 「大竹伸朗 全景」大竹伸朗全景展実行委員会, 東京
「大竹伸朗展 路上のニュー宇宙」大竹伸朗展実行委員会, 福岡
2006 「ネオンと絵具箱」月曜社, 東京
2005 「既にそこにあるもの」筑摩書房, 東京
2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」集英社, 東京

TAKE NINAGAWA

- 「UK77」月曜社, 東京
- 2002 「テレビン月日」晶文社, 東京
- 「18」青山出版社, 東京
- 1999 「ZYAPA ORAMA 日本景」朝日新聞社, 東京
- 1997 「YMCB」トランスアート, 東京
- 1993 「ジャリおじさん」福音館書店, 東京
- 1991 「SO: 大竹伸朗の仕事 1955-91」UCA宇和島現代美術, 東京
- 1986 初画集「<倫敦/香港>1980」用美社, 東京